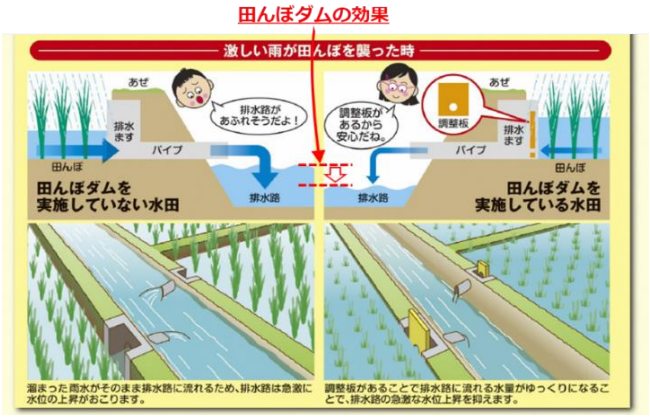
新潟発！「田んぼダム」の取組

農村環境課

1　はじめに

(1)「田んぼダム」とは

水田にもともと備わっている雨水の貯留機能を有効活用するため、水田の排水口に排水量を調整するための排水管や小さな穴の開いた調整板等を取り付け、排水路・河川への雨水の流出を抑制し洪水被害の軽減を図る取組みです。



(2)「田んぼダム」の効果

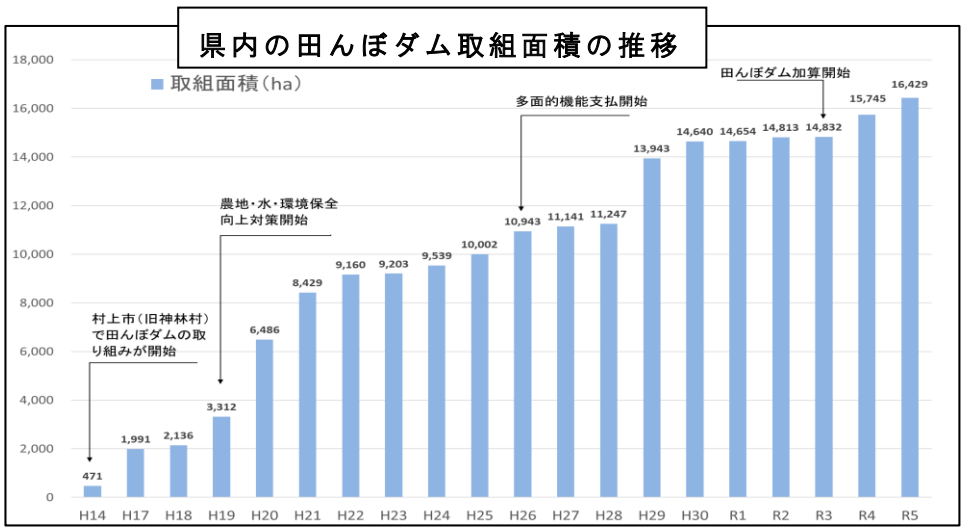
新潟市南区（白根地区）において30年に1度の雨（163mm/日）が降った場合の、「田んぼダム」の実施有無による浸水状況をシミュレーションした結果が下図になります。「田んぼダム」を実施すると浸水面積（着色部）が約6割減少し、浸水被害の低減に効果があります。





2　新潟県の取組状況

平成14年に全国に先駆けて村上市（旧神林村）で「田んぼダム」の取組が開始され、令和5年度時点で、県内19市町村約16,000haで「田んぼダム」を取り組んでいます。



3 現地研修会の開催

令和5年11月15日、多面的機能支払交付金 新潟県推進組織は、小千谷市において、「田んぼダム」に関する現地研修会を開催しました。

新潟県から「田んぼダム」の概要説明や模型による実演を行った他、小千谷市や魚沼市の協力を得て事例紹介や現地視察を実施しました。

当日は、多面的機能支払の活動組織の方を中心に70名を超える参加があり、参加者からは、「模型を使った田んぼダムの実演はリアルで分かりやすかった」「現地で田んぼダムを実際に見ることができて参考になった」等の声がありました。



・模型による田んぼダムの実演



・現地視察（取組農家による説明）

4 「田んぼダム」の取組拡大に向けて

「田んぼダム」の取組拡大は重要であり、以下の3つのポイントを考えています。

①より大きな効果が期待されるエリアの検討

②エリア内での田んぼダムの取組に対する理解の促進

③多面的機能支払交付金（田んぼダム加算）などの支援策を活用した合意形成

これらのポイントを市町村や関係機関に周知し、連携を図りながら取組拡大を推進していきたいと考えています。

また、取組拡大の推進に関しては、令和5年3月16日に開催された「信濃川下流域における流域治水 ～「田んぼダム」推進に向けたトップセミナー」において説明していますので、ぜひ次のURLにある資料も参考にご覧下さい。

・信濃川下流河川事務所 「信濃川下流域における流域治水 ～「田んぼダム」推進に向けたトップセミナー」

https://www.hrr.mlit.go.jp/shinage/oshirase/ryuikichisui/230316_seminar/index.html